

令和5年度 国府まちづくりセンターの主な取組

事業名

ものづくりを通したひとづくり～そして地域づくり～

P

●事業実施に至った背景、目的

- ・国府の資源を活用し、ものづくり体験を通して多世代交流を図る
- ・今後地域で活動していく人材を発見、育成を行う

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

【アウトドアめし～タケでごはんをたいてみよう!!～】

昨年の主な取り組みの1つである「竹灯籠」で関わってもらった方と協議を行い、試作を行う(令和5年4月～)

【おさかなからちくわをつくってみよう】

運営推進委員会議の中で「地域資源を活用した体験」を洗い出し、開催時期から考え、「竹輪作り」を行うことに(令和5年10月～)

D

●事業の概要

【アウトドアめし～タケでごはんをたいてみよう!!～】

“竹”を道具として利用し、国府地域の食材を調理する親子体験活動として実施。作業は地域講師の方から教わりながら、竹で炊飯用の筒、箸、お椀を親子で製作。使う食材はこくふ朝市で販売している地域の方お手製の漬物や米、野菜のほかに国分大敷漁で捕れた魚を焼き、国府の資源満載の食事をみんなで味わう。

【おさかなからちくわをつくってみよう】

運営推進委員メンバーで試作、協議をした上で親子で体験できる活動を企画。

市役所水産振興課に協力していただき、浜田の水産業や未利用魚について話を聞く学びの時間も取り入れる。竹を切る作業や、調味料を量って魚のミンチに混ぜ、竹に巻き付け焼く...家ではなかなかできない様々な体験を提供。



C

●事業実施後の振り返り

- ・講師の方は昨年から引き続き、地元での活躍や学校支援ボランティアとして活躍をされている。参加者は国府の資源の豊かさを、体験を通して実感してもらうことができた。
- ・運営推進委員会議の中であがった体験を事業として実施することができ、運営推進委員会の結束が高まった。参加者は体験を通して地域との距離が少し縮まったように感じる。

A

●令和6年度以降の方向性

- ・昨年度同様、地域の方が中心となって事業ができるよう、センター職員はサポートにまわり、さらに地域で活動ができる人材育成に関わっていききたい。
- ・令和2年から行っているこくふ朝市は来年度も様々な関係者と協力しながら、多世代交流の場として継続しそのための工夫を行っていく。(下記参照)

【アウトドアめし～タケでごはんをたいてみよう!!～】



みんなで作った国府定食!初めて食べる板ワカメのふりかけが大人気!!ご飯がすぐなくなりました



【おさかなからちくわをつくってみよう】

初めてのノコギリ!地域の人に支えられて頑張りました!



拡大版こくふ朝市【こくふまつり】



大人に加え、去年から活動が続いている中学生グループ「Shell」と小学生「Smiley」、その他にも大学生や高校生が関わり、国府地域を盛り上げました